

2024/2025 年度ブランチ運営委員会メンバー



左から：鳥山豊喜・小杉由美子・西森典子・境雅子・渋谷明美・横尾容子の皆さん

ブランチ・クラス

千代田区立スポーツセンター多目的室

8月 休止

9月21日(土) 1:30-4:00 講師 西森典子

テーマ：ジム・ストットのブックから

お問合せ：担当 渋谷明美 047-351-8581

わら、2008年以來東京ブランチの運営にも携わりました。チェアマンとして4年、セクレタリを4年経験し、外国人ティーチャーの招致による会員のスキル向上、ブランチの円滑な運営に大いに寄与しました。また長年マガジン日本語版作成にあたり、翻訳者の一人として貢献しています。西森さんは一時期体調を崩され、しばらくブランチ・ダンシングから離れていましたが、すっかり復調され、これからも大いなる活躍が期待されます。

西森典子さんにブランチ賞



西森さんにブランチ賞を贈呈

西森典子さんは、大野悦子さんのもとで1997年にスコティッシュ・カントリー・ダンシングをスタートし、地元佐倉市でSCDグループを率いるとともに、2005年セント・アンドルーズで指導者資格を取得しました。地元のほか、千葉市および船橋市でSCDの普及に努めるかた

2023 年度年次総会

6月2日(日) 赤羽会館小ホールで東京ブランチ2023年度年次総会が開催され、2023年度活動報告・同決算報告、2024年度活動計画(案)・同予算(案)、2024/25年度運営委員、ブランチ規約変更が承認されました。内容は会報No.41をご覧ください。当日ご出席のみなさん、ありがとうございます。

2024/25 年度運営委員

チェア	境 雅子	047-368-3873
セクレタリ	西森典子	043-485-2528
	bon_accord417@amail.plala.or.jp	
トレジャラ	小杉由美子	047-463-8520
委員(クラス担当)	渋谷明美	047-351-8581
委員(ショップ担当)	横尾容子	047-447-5863
委員(メンバーセク)	鳥山豊喜	044-577-5231

最近の本部ニュース

- ▶2023年度は年会費および夏・冬スクールの収入が予想を下回ったが、Book 53 および 100 年記念商品の売れ行きが好調だったため、予想収益を達成すると思われる。2024年度はショップ収入が前年度よりも大幅に下回るため、一般会計で29,000ポンド(600万円)の赤字が予想される。
- ▶毎年の年会費値上げについて各ブランチの反応を議論した。1年間、値上げ凍結を検討中。
- ▶Unit 2、3 および 5 の受験料は35→40ポンドに、Unit 4 受験料は25→30ポンドに値上げされる。
- ▶5月8日、RSCDSの新パトロン就任について、チャールズ国王が承諾された。エリザベス女王の死去に伴

い、王室のパトロン(後援者を意味するが、東京ブランチでは「名誉総裁」としている)は不在となり、RSCDSは引き続きチャールズ国王にパトロン就任をお願いしていた。新国王はいろいろな名誉職をこの際整理したいとの意向だったが、RSCDSは整理対象外としてパトロン就任を承諾された。

- ▶外部に中央集権的な印象を与えるのを避けるため、Headquarters本部という言い方を、所在地名のCoates Crescent コーツ・クレセント(コーツ三日月通り)に変更する。(わがブランチでは、「本部」は2文字、「コーツ・クレセント」は9文字、短文化のため従来どおり「本部」を使う。蛇足ながらCrescentをフランス語にするとCroissant クロワッサン)。

いま、プリンセス・ロイヤルはだれ？

前号のブランチレターでプリンセス・ロイヤル、アン王女の写真を載せた。記事は2020年当時のもので、日本ではチャールズ国王の即位によりプリンセス・ロイヤルも変わられたのではないかとの憶測がある。

プリンセス・ロイヤルは、国王(または女王)がその第一王女(長女)に授与する終生称号である。終生であるため、アン王女は生涯を終えるまでこの称号で呼ばれる。アン王女の前は、ジョージ5世の長女メアリ王女が1932年から1965年に亡くなるまでプリンセス・ロイヤルであった。アン王女がエリザベス女王から称号を授与されたのは1987年で、前のプリンセス・ロイヤルが亡くなったからといってすぐに与えられるものではない。ウィリアム皇太子の娘、シャーロット王女にその資格はあるが、授与されるとすればアン王女のあとになる。

カミラさんがプリンセス・ロイヤルだというのは誤りで、カミラさんはカミラ王妃 Queen Camilla と呼ばれている。(トム鳥山)

ブランチ行事予定

- 11月4日(休)午後 Dance Around the World (杉並公会堂グランサロン、音楽:大森ヒデノリ・小海弘子)
- 1月11日(土)午後 New Year Dance 2025 (杉並公会堂グランサロン、音楽:大森ヒデノリ・青山り)

運営委員会報告

- 2024.5.3 (港区生涯学習センター。以下同じ)
 - ・年次総会と総会後のダンス会の最終すり合わせ。規約変更動議の最終案をまとめた。
 - ・8月のブランチ・クラスは休止。9月または10月にシ

ョップであっせんしたブックやCDのダンスを踊るクラスを設けることを考える。

- ・4/12、本部から11/23にDance Around the Worldを開催してほしいとの連絡あり。今からでは会場確保困難なため、11/4の秋のダンス会をDance Around the Worldに名称変更して開催する。
- ・会員への連絡は、6月ははがきとし、7月に年会報とマガジン日本語版を送る。
- ・次期ブランチ委員について候補者を話し合った。

2024.6.7

- ・新しい委員のそれぞれの担当を確認した。
- ・ブランチの情報授受はすべてセクレタリに一元化される(ショップなど権限移譲された事案を除く)。
- ・ブランチ・クラスは、例えば9月はジム・ストット・ブックから、10月はDance Around the Worldからというように、テーマを決めて講師に依頼・実施する。
- ・Dance Around the Worldのダンス・プログラムは7月、New Year Dance 2025のダンスは10月に決める。
- ・10/12のUnit 1試験に2名の受験希望者あり。委員の情報共有のため、試験手順勉強会を行う。
- ・来年Book 54の発行予定あり。2025年8月下旬に講習会を開くことにし、会場予約など準備を進める。

2024.7.5

- ・トレジャラ交代による郵便貯金口座の名義変更が難航しているが、何とか対処できる見込み。
- ・11月4日(月・休)Dance Around the Worldの追加3ダンスを決めた。(4ページの最下行参照)。
- ・8月のブランチニュース発行は休止とする。
- ・10月12日(土)のUnit 1試験における監督者2名を決めた。
- ・円安によりショップ商品価格が高くなっている。ひところ比日本円の価値は半減しており、この傾向はしばらく続くと思われる。

SCD music を弾き始めてどの位になるのでしょうか・・・13 歳だった子が今年 45 歳・・・“ええ～っ! 32 年!?? いつの間に!?”

キッカケは突然手渡された一本のテープと一枚の譜面。数か月後にある party の講習曲とデモ曲（確か）で、ピアノで踊りたいと言われるのですけれど、

ナントこの二つ、“音は有るけど譜面はナイ・譜面はあるけど音はナイ”というもの。よりによってなんでそんな面倒な曲を!?

「ええ～っ!!」となりつつも一回限りの事ならと、ひたすら巻き戻しを繰り返しつつ採譜したのは“Shiftin' Bobbins”、そしてコード書き込みに四苦八苦したメロディー譜は“Heather on the Mountain” (Dunedin Dances Book 1, 1986)

そして迎えた本番当日は何とか無事終了し無事無罪放免・・・とはならず、気付けば 32 年!

次の機会“Book 37 講習会” (1992) はスグに訪れ、そこから何かワカラナイ大きな流れに乗ったかのように譜面相手の時間が続いていくのですけれど、この譜面に「ええ～っ!!」となり、アタフタすることに。

Book とテープをお借りして「どれどれ」と広げて「アレ??」・・・それぞれ 4 回だったり 8 回だったりと繰り返して踊ると言うのに譜面は各々 1 曲ずつしか付いてない。

“ナンダ??”となりつつ、テープを聴くと、何やら違う曲をくっつけて回数分演奏されている。

その後、自分で曲を探して Set というものを作る必要があるらしいとわかったものの、楽譜の持ち合わせなどあるワケもなく、あったとしてもどの曲を選べば良いのかワカラナイ・・・

どうすりゃいいんだ? で、結果、コレっきゃナイか・・・となったのは Book 37 丸ごと採譜! (やり遂げた自分を褒めたいw)

そして迎えた当日、その譜面をピアノの前に広げていると、講師の松橋順子先生 近づいて来られ、目にされるなり「えっ!?! どうしたのお～? コレ!」

そして全てピアノで終了すると「すごお～～～い! 夢だったのよお～、ピアノでのクラス!!」 この瞬間 piano の前に居る事にハマったのかもしれない。

ハマったものの、丸ごと採譜はもうやりたくない! 取り出したマニュアルは「良く知られている曲は使ってはいけない。ダンサーを惑わすから」などと言っている。

理由は納得できたものの「私が知らないだけで、良く知られている曲かもしれないじゃん・・・」とまたまた「マイッタなあ～」に突入。

そんな時サマースクールに初めて参加することになり、日本でお会いしたことのある Pianist・ジェニファー・ウィルソン Jennifer Wilson さんにもお会いできるとわかって「チャンス!」とばかり、アンダーラインをしっかりと引いたマニュアルを持ってドキドキしながらジェニファーの元へ。ところが! マニュアルは無残にもパタッと閉じられポンと放り出され、で、「Hiroko、気にしなくていい!」

「どう踊らせたいか」が大事なのだと言われ「Hiroko がコレで踊って欲しいと思う曲を弾けばいい」

次元が違う・・・かつて Highland dancer で Scottish music が身に沁みついているジェニファーだから言えること。

全てゼロからの、出発したばかりの私にコレ言うかあ～!? それでも、気にいった曲があるとコピー&切り貼りしてセットを作るようになり、それらで弾くことにもすっかり慣れた頃、上記の“マニュアルの文言”を聞くことに! 2018 年、日光で初めてご一緒したジム・リンジイ Jim Lindsay から「Hiroko, コレは使えない!」と言われ「ん?」と見れば手にされているのは The Gentleman の set に入れていた“Muriel Johnstone's Compliment's to Robert Mackay”理由は「コレは The Minister on the Loch の tune として良く知られているから」わ、ホントに言うんだあ～とへんな感心? しつつ、差し換えられた譜面で演奏したものの「ツマラン・・・」

その後もプロに入ることの多いこのダンス、「やっぱりこっちがスキ!」と即、セット元に戻して「コレで踊って欲しいのっ!!」

ジェニファー、「Well done!」と言ってくださいるでしょうか? それとも・・・



ジム・ストットを補佐して

Dance Around the World

11月26日はRSCDSが生まれた日で、本部はこの日に近い11月23日、ニュージーランド/オーストラリアから始まり、アジア、アフリカ、欧州、北米と回り、ハワイで終るダンス会を開催するよう希望しています。大がかりなダンス会でなくてもよく、台所や庭、小さなクラスでもよいといっています。プログラム内容は南極を含む6つの大陸に関係する12のダンスを特色にしており、最後はThe Homecoming Danceで締めくくれ、です。11月23日近辺のダンス会が恒例となるのか、今年のみ行事となるのかはわかりません。東京ブランチは11月4日に前倒しでこのDance Around the Worldを行ないます。

Dance	Book	大陸	大陸との関係
Strathspeys			
The Swan and the Tay	3x32 Perth 800	オセアニア	西オーストラリアのパース市を流れるのがスワン川、スコットランドのパース市を貫流するのがテイ川。西オーストラリアのオードリー・ソンドースが作った。
Oriel Strathspey	4x32 Book 32	オセアニア	作者のイアン・シモンズはNZ ウェリントンの人。オリエルは作者が通っていたSCDクラス会場の通りの名前。
Cape Town Wedding	8x32 Book 39	アフリカ	今はイングランドで引退生活を送っているが、このダンスを作った1995年ごろ、作者トム・カーはケープタウンで指導していた。
From Scotia's Shores We're Noo Awa'	8x32 Leaflet	北米	カナダ・オンタリオ州の大御所、ボブ・キャンベルの1964年の踊り。この踊りでTournéeがRSCDSダンスに初めて登場した。
Jigs			
A Trip to Drakensberg	8x40 Book 38	アフリカ	ドラケンスバーグは3,000m級の山が連なる南ア南東の大山脈。作者のバーバラ・レンドルはケープタウン東の町、サマセット・ウェストに居住していた。
Antarctica Bound	4x32 Scotia 100	南極	20世紀初頭のスコットランド南極探検隊を記念したロイ・ゴールドリングの簡単で楽しいジグである。
Shetland Shepherdess	8x32 Graded 3	北米	ノルウェーにいたシェトランド出身の女性羊飼いをタイトルにしている。カリフォルニアのロン・ウォーレスの作。2014年のわがブランチの水上周ウークエンドで披露された。
The Laird of Milton's Daughter	8x32 Book 22	アジア	郷土(大地主)ミルトンの娘の意。インド赴任中だったクレイグマイル卿がcorner chainをとり入れて作ったジグ。
Reels			
Cadgers in the Canongate	8x48 Book 9	欧州	カジヤーはスコットランド語で、魚、野菜、雑貨などを馬車に積んで売り歩く商売人のこと。カノンゲートはロイヤルマイルの東部分の名前。
Dancing in the Street	4x32 Book 42	アジア	2000年頃までサマースクールの恒例となっていた野外での行事である。
A Castle in the Air	8x32 Book 43	欧州	スイスのミニー・ベニンガーのリール。キャッスルとはドイツのノイシュバンシュタイン城をさす。
The Homecoming Dance	4x32 Leaflet	欧州	2009年は「ふる里に行こう」キャンペーンのあった年である。作者アン・ソーンはヘレンズバラの人で、Portincaple Oak (Book 53)もアン作。

11月4日の杉並公会堂グランサロンでは、上記にHana Strathspey (8x32S)、EH3 7AF (8x32J)、The Fife Hunt (8x32R)を加え、計15ダンスで行ないます。

The Montgomeries' Rant – RSCDS Book 10

RSCDS が出版したダンスの中で、最も人気があるダンスの一つで、これを知らないダンサーはいないといわれるダンスがある。2つのチューンつきで出版されたが、いつの間にか第2チューン、Lady Montgomerie がこのダンスの第1チューンとみなされるようになった（もともとの第1チューンは Lord Eglintoune）。

では The Montgomeries' Rant のモントゴメリーとはいかなる人物なのか？

モントゴメリーとはエグリントン伯爵の名字であり、1749年付けのメニーズ城手書き文書によれば、第10代伯爵のアレキサンダー・モントゴメリーは当時モントゴメリー氏族（クラン）の首長であった。彼がその人物なのか？ モントゴメリーとエグリントンの名は両方ともトラディショナル・チューンの楽曲集にしょっちゅう現れるが、彼らは何者なのか、そして彼らのルーツは何なのか？

モントゴメリー家

モントゴメリーという名前は12世紀からスコットランドに存在するが、最初のモントゴメリー家はウォルター・フィッツ・アランの家臣としてスコットランドにやってきた。モントゴメリー (Montgomerie) の名前は、ウォルター・フィッツ・アランがウェールズのモントゴメリー (Montgomery) に腰を落ち着けたことから採られたと思われる。ウォルター・フィッツ・アランという名前はほとんど知られていないが、デビッド王1世がウォルターを上級管財人（スチュワード）に任命したときスチュアートを名乗らせた。以後、ウォルターの子孫はスチュアート家として1371年から1714年までスコットランドの君主であった。

レンフルー島のイーグルサム大荘園はデビッド王がウォルター・フィッツ・アランに下付したもので、ウォルターはその後、家臣の一人、ロバート・モントゴメリーにイーグルサムの地を与えた。14世紀にいたって、ジョン・モントゴメリー（ロバートの子孫）は、エアシャー、エグリントンの大地主で女相続人のエリザベス・エグリントンと結婚した。モントゴメリー家は、ウォルター・フィッツ・アランの一家臣に始まり、エアシャーとレンフルーシャーにおよぶ大領主にまで特出して出世したのである。彼らの地位は、アレキサンダー・モントゴメリーが貴族エグリントン卿に列せられた1445年にさらに高まり、1506年にはヒュー・モントゴメリーが最初のエグリントン伯爵に任ぜられた。



イーグルサムの公共地



イーグルサムのモントゴメリー・ストリート

年を重ねるに従い、モントゴメリー家の関心はエアシャー、エグリントンのポルヌーン城に移り、イーグルサムの邸宅は荒れ果て、1676年には廃墟となった。しかしながらイーグルサムへの関心が消滅したわけではなく、第10代伯爵のアレキサンダー・モントゴメリーは1769年、イーグルサムの古い教会町の再設計と開発に取り組み始め、実際の建設は11代伯爵に引き継がれた。イーグルサムは18世紀スコットランドの都市計画による町で、1968年に最初に保存地域に指定された。町とモントゴメリー家とのつながりは通りや建物の名前に残っている。例えば、モントゴメリー広場、モントゴメリー・ストリート、ポルヌーン・ストリート、エグリントン・アームズ・ホテルなどである。イーグルサムは1835年までモントゴメリーの手の中にあっただが、700年間の所有の後、モントゴメリーはイーグルサムを不動産市場に売り出した。

居城

第11代伯爵が息子を残さなかったため、思いがけなく12代爵位を継いだヒュー・モントゴメリーは、第6代伯爵の

末裔で、第 11 代から最も近い男系の親族であった。

ヒュー・モントゴメリーは、特にエネルギッシュな性格だったようである。爵位を継ぐ前、彼は海外で軍務につき、ハイランドの軍用道路の検査官に任命され、ついでエアシャー議会議員となった。1796 年にエグリントン伯爵を相続すると、彼はただちにエグリントン城をよりモダンで壮大な邸宅にする改装に着手した。完成したのはゴシック時代の城を模した四隅に塔を有する 30 メートルの円形の城郭である。それは仰々しい設計概念であり、おそらく外観と大きさでカーレン Culzean 城に次ぐものである。1797 年に礎石が置かれ、完成は 1802 年であった。



15 世紀の元々のエグリントン城



19 世紀初めのエグリントン城

この壮大な城の寿命は割合に短かった。高額な維持費と相続税がモントゴメリー家の財政を圧迫したためである。城は 1925 年に廃棄され、内装品はオークションにかけられた。競売されたアイテムの 1 つには、アロウェイ教会にあったオーク（ナラの木）材で作られた椅子があった。椅子の背板にはロバート・バーンズの詩「タム・オー・シャンター」の全文が書かれた真鍮の額がはめ込まれていた。

1926 年に屋根がなくなり、建物は徐々に荒れるにまかせられた。最後のとどめは第 2 次大戦中にやってきた。陸軍の訓練に使われ損傷したのである。こんにち城の残った部分は安全が図られ、敷地はエグリントン・カントリー・パーク（エアシャーのポピュラーな行楽地の一つ）に変わった。



現在のエグリントン城



エグリントン・カントリー・パーク

港湾と運河

エグリントン城の完成後、12 代エグリントン伯爵の関心は領内でかなりの部分を占めるアードロッサンの開発に向けられた。18 世紀においてグラスゴーは商工業都市として成長したが、その発展は航行可能な川としてのクライド川の制約によって妨げられていた。こんにち理解しがたいことだが、クライド川は古来浅い川で、満潮時の水位はグラスゴー中心部よりも 1 メートル上回っていた。よってクライド川を航行する船の大きさには制限があり、鉄道が登場する前は、港へのアクセスを良くすることが切実な問題であった。

さまざまな意見があったが、1 つは、アードロッサンにかなりな港を建設し、グラスゴー中心部と運河で結ぶというのが第 12 代エグリントン伯爵の提案であった。トマス・テルフォードが港と運河の両方の設計に従事した。港の建設は 1806 年に始まり、完成をみたのは 13 代伯爵のときであった。両方ともレジャー・マリナーとして、またアラン島へ

の主要なフェリー・ターミナルとして現在も使用されている。



1800年代のアードロッサン港



アードロッサンに停泊中のカレドニアン・アイルズ号

運河建設は1807年に始まったが、より多くの難関の存在が明らかになり、ジョンストンとグラスゴー間は1811年に開通したが残りの部分は未完成となった。コストの過小評価、資金不足、クライド川の改良により大型船がグラスゴーまで航行できるようになり、残りの部分の運河計画は中止された。運河の完成部分は、鉄道が開通するまで貨客輸送を担った。1881年に運河は閉鎖され、グラスゴー&サウス・ウェスタン鉄道のペイズリー・キャナル線の建設に多くの運河跡地が利用された。ペイズリー・キャナル線は今も存続しており、ペイズリー・キャナル・ストリート駅は列車停止駅となっている。興味深いことに、鉄道路線はカート川に架かるトマス・テルフォードの1808年の運河橋を利用している。おそらく現在も使用されている鉄道橋のなかで、これは世界最古のものである。



ペイズリー・キャナル・ストリート駅



鉄道橋に使われているテルフォードの1808年の運河橋

運河はなくなったが、その跡はグラスゴーからジョンストンの間に今も多くを見ることができる。アードロッサンでさえ、主要な大通りであるグラスゴー・ストリートは、もともとはアードロッサン港に通じる運河の最後のセクションとして作られていた。ほとんどのグラスゴー人や訪問者はグラスゴーのエグリントン・ストリートやエグリントン・トールに気づくが、そういった地名が第12代伯爵の名前に由来することには気づかないだろう。運河のターミナルはエグリントン・ストリートに隣接していて、ポート・エグリントンと呼ばれていたし、運河が埋められて長い間たったけれども、グラスゴーにまだ残っている名前でもある。

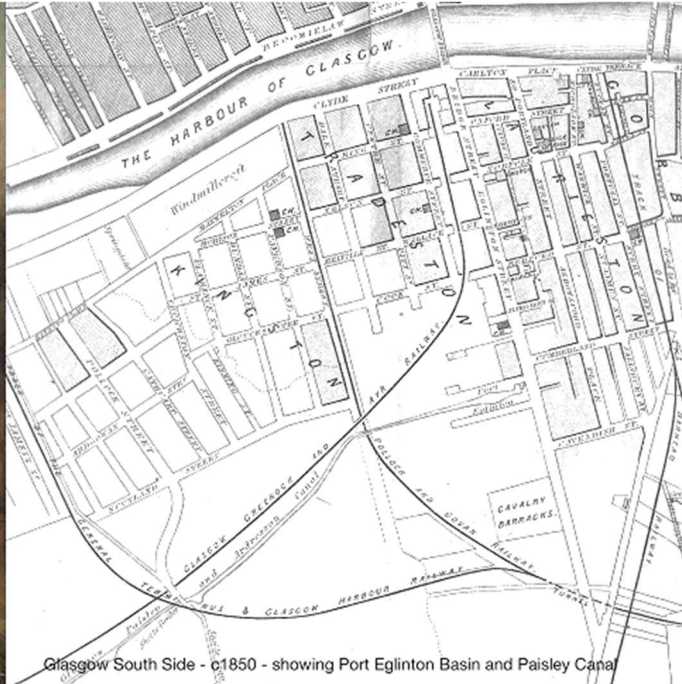
スコットランドの西側の多くの町にはエグリントンまたはモントゴメリーの名前をつけた協会があり、この地域でのモントゴメリー家の歴史的な影響力を示している。アードロッサン港にはモントゴメリー桟橋、エグリントン・ドック、エグリントン干潟の名前が残っている。

作曲者として

第12代伯爵の生涯は、道を極めたとは言えなかったかもしれないが、それと同じく非常に有能ではあるが、ミュージシャンとしても（チェロ奏者および作曲者として）アマチュアであった。

1795年に、ナサニエル・ガウは伯爵の指示に基づいて、伯爵の楽曲集を匿名で出版した。いわく「ある紳士が作曲

し、エジンバラのナサニエル・ガウが出版する許可を得た、ピアノフォルテ、バイオリン、バイオリンチェロのための新しいストラスペイ、リール集」である。



第12代エグリントン伯爵

1850年代のグラスゴー南側。ポート・エグリントンなどあり

スコティッシュ・カントリー・ダンシングの世界に関する限り、彼の最もよく知られている作品は、*The Montgomerie's Rant* に関連するチューンとなっている *Lady Montgomerie* である。だが、レディ・モントゴメリーとはいったい誰なのか？ チューンは彼の娘であるレディ・ジェーン・モントゴメリーまたはレディ・リリアス・モントゴメリーのどちらにちなんでいるのか？ あるいは11代伯爵の娘で、義理の娘となったレディ・メリー・モントゴメリー？ それとも妻のエレナのこと？

第12代伯爵は大きな野心を持った男であり、彼の計画の多くは完全には実現または存続しなかったが、彼は偉大なリール、*Lady Montgomerie* の作曲者としてスコティッシュ・カントリー・ダンス愛好者に、いつまでも思い出されることだろう。

スコットランドの歴史で、この日は by Peter Knapman, Dance Scottish at Home, Issue 19, 7/8/2020

1747年8月1日ー（江戸時代中期、大岡越前守忠相70歳。翌年歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」が上演された）

軍隊を除き、この日からタータン、キルト、ハイランド・ドレスの着用が禁止された。禁止令の範囲についてはさまざまな話がある。バグパイプも禁止されたのか？ゲール語を話すのはOKだったのか？家族で集まるのもだめだったのか？

知られているのは、禁止令の目的はスコットランド・ハイランドの武装解除に決着をつけるものであり、ジャコバイトのアイデンティティの中心とみなすものを禁止することにあった。

禁止令の条文は『1747年8月1日以降、スコットランドと呼ばれる大英帝国の一地方において、英国軍の将校と兵士を除き、いかなる男子・少年も一般的にハイランド装束と呼ばれるものをまとはならない。その装束とは、プレイド（パイパーが着ている片方の肩で留める長いタータン）、フィリベッグ（キルト）、ズボン、肩からかけるベルト、そして一部であってもハイランドの特徴を表すものである。タータンやチェック柄をコートや上着に用いてはならない……』

条文をよく読めば、タータン生地そのものは禁止されておらず、男子・少年に限定されており、女性は引き続きタータンをまとうことができた。（禁止令が解除されたのは1782年）。

本部のオンラインショップで、販売中の下の写真のRSCDSタータンチェック製品を見つけていただきたい。



(大相撲その他の表彰式で演奏される、ヘンデル作曲『見よ、勇者は帰る See, the Conquering Hero Comes』がロンドンで初めて演奏されたのもこの年の4月。勇者とは、前年の4月、カロドゥンでプリンス・チャーリー率いるハイランド軍（ジャコバイト軍）を徹底的に打ち負かし、敗残兵・同調者に対し苛酷を極めた報復を行ない、ブッチャー（屠殺者）カンバランドと呼ばれた、政府軍総司令官カンバランド公ウィリアム・オーガスタス（ジョージ2世の3男）を指すといわれている）。



ヘンリー・ベルのコメット号



トマス・テルフォード

1812年8月8日ー（この年、ナポレオンがモスクワで敗退。国後島の沖で高田屋嘉兵衛がロシア船に拿捕される）

ヨーロッパで蒸気船による最初の商業試験運航が、グラスゴーからグリーンノック間のクライド川で開始された。蒸気機関を船に搭載するという課題は、18世紀を通じて技術者たちの目標であり、さまざまな設計がなされたが、どれも工学上の問題を解決できなかった。船用蒸気機関の実用化に成功した最初の蒸気船は、1803年に建造されたシャーロット・ダundas号で、フォース＝クライド運河で用いられた。1812年、ヘンリー・ベルのコメット号がヨーロッパで最初の外洋航行蒸気船となった。（一般には1807年、ロバート・フルトンがニューヨーク・ハドソン川で運行させたクラモント号が世界最初の蒸気船といわれている）。

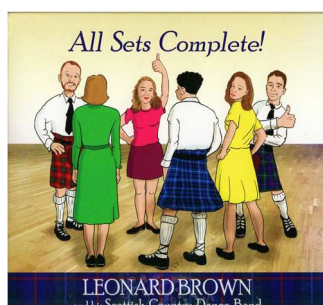
1757年8月9日ー（当時29歳の平賀源内が江戸・湯島で全国物産展を開催）

「ダンス名のうしろにあるもの」で何度も登場することになる卓越した土木建築技師、トマス・テルフォードがこの日に生まれた。テルフォードが生まれて間もなく父親が亡くなり、ダンフリーズの田舎で貧困のなか、母親に育てられた。テルフォードの土木工学はスコットランドを変革したのである。ディーン・ブリッジ（エジンバラ）、カレドニアン運河など、彼の成果は後日お伝えする。

All Sets Complete! … CD のみ

Leonard Brown and his Scottish Country Dance Band

- | | | |
|---------------------------------|--------------------------------------|----------------------------------|
| 1. Maxwell's Rant (8x32R) | 7. The Balmoral Strathspey (4x32S) | 13. Far North Queensland (5x32S) |
| 2. Welcome to Dufftown (8x32J) | 8. The White Heather Jig (4x32J) | 14. High Society (4x40R) |
| 3. The Moray Rant (3x48S) | 9. Reel of the 51st Division (8x32R) | 15. Jennfer's Jig (8x32J) |
| 4. Staircase in Styria (5x40R) | 10. The Dream Catcher (96S) | 16. The Duchess Tree (8x32S) |
| 5. Joe MacDiarmid's Jig (4x32J) | 11. Ramadan-ce (8x32R) | 17. Shifftin' Bobbins (8x32R) |
| 6. Crossing the Line (6x32R) | 12. Napier's Index (8x40J) | 18. Jessie's Polka |



バンド・リーダーのレナード・ブラウンは2016年からスコティッシュ・カントリー・ダンスで演奏していたが、ダンスを始めたのは2023年11月からで、ニューカッスル・ブランチのシーラ・トラフォードの指導のもと、めきめきと上達し、このアルバムを作る気になった、とある。数か月で Swirl、連続の 1/2 reels of four や Interlocking allemande ができるようになったわけで、よほどリズム感や方向感覚がよい人なのだろう。

上記リストにみられるとおり、既発行の17ダンスの音楽である。Welcome to Dufftown ダフタウンはスペイ川流域のウィスキー街道からやや外れているが、グレンフィディックの工場がある町。The Moray Rant マリー・ラントはジョン・ドゥルーリの Silver City Book 中の踊りで、他バンドの録音も多いが、48小節なのでクラス向きであろう。Staircase in Styria はオーストリアのスティリア (シュタイヤー・マルク州) の古都グラーツにある二重のらせん階段の家をタイトルにしている。会津若松市のさざえ堂と同じ構造なのかどうかはわからない。マリアン・アンダーソンのオリジナル盤よりも8秒長いが、こちらの方が余裕をもって踊れる。Crossing the Line でダンス作者はオリジナル・チューンにホーンパイプと指定しているだけなので、このトラックでは Book 46 の

Scott Meikle を使っている。

Ramadan-ce の第1チューンはマリアン・アンダーソン盤と同じくシューベルトの「楽興の時 第3番」を使っているが、これ以外のチューンはレナード・ブラウン独自の選択で、第2チューンにパガニーニの超難曲「カプリース (奇想曲) 第24番」が入っている。主題の16小節がリールのリズムで2回繰り返されているだけだが、とても面白い。Far North Queensland (遙かなるノース・クイーンズランド、とも訳すべきか) はずいぶん前に、有田典和さんの指導でブランチ・クラスで踊った記憶がある。時間に余裕をもって指導したいストラスペイである。

演奏スピードは速くもなく、遅くもなくほどよい速度である。The Duchess Tree は8分17秒で収録しており、もたれることなくしゃっきり踊れる。全トラックの代替チューンに、ワルチング・マチルダやどこかで聞いたなじみのスコティッシュ・チューンが入っており、踊っていて楽しい。

バンドはリード・アコーディオンのレナード・ブラウン、第2アコーディオンのジム・リンジイのほか2人のフィドラー、ピアノ、ダブルベース、ドラムスという豪華な7人編成で、音にいっそうの深みがある。ジグは躍動的、リールは滑らかな飛躍、ストラスペイは優雅で輝きに満ちている。初めてのレコーディングでこれほどの作品を生み出していることに感心する。紙ケース入り。★★★★ [注文略号: レナード・ブラウン CD]

Formation Foundations Blue CD … CD のみ

Jim Lindsay & his Scottish Dance Band

- | | | |
|-----------------------------------|----------------------------------|--------------------------------|
| 1. Jack's Dance (8x32J) | 8. The Piper's Son (6x32S) | 14. The Slinky (3x32R) |
| 2. Newark's Welcome (3x32S+3x32J) | 9. All Things Nice (5x32R) | 15. " (Encore) (3x32R) |
| 3. Little Jack Horner (8x32R) | 10. Over the Hills (3x32S+3x32R) | 16. Super Slinky (3x32S) |
| 4. Three Blind Mice (3x32J) | 11. Slugs and Snails 3x(32S+32J) | 17. Ring O' Rose (6x32J) |
| 5. " (Encore) (3x32J) | 12. Daisy, Daisy (6x32J) | 18. Little Miss Muffet (8x32R) |
| 6. The Ship's Bell (3x32S) | 13. Red Roses (3x32S) | 19. Ocean Waves (8x32J) |
| 7. The Grand Old Duke (8x32R) | | |



ブランチレターNo. 125 (2024年2月)でご紹介したファンデーションCDの続編である。先のCDはグリーンCDと名付けられていたが、今度のもはブルーCDとなっている。

CDのもととなるク

リス・ロナルド作のブック、Formation Foundationsには32のダンスが収録されているが、グリーンCDはそのうちの15ダンスの音楽をカバーしていた。残りの17ダンスは、クリスの意向にしたがえばどんな音楽を使っ

てもよいということになるが、そうもいかないだろうとこの続編ブルーCDが発売され、ブックの全32ダンスが音楽をもつことになった。バンド、バンドメンバーは前編と同じジム・リンジイで、軽快、明瞭に演奏している。ミュージカル・ナンバーなどの余興はなく、Skip to My Louほかのアメリカ民謡やアイリッシュ曲が入っている程度で残りはスコティッシュ音楽である。面白いのはトラック10のOver the Hillsで、3つのチューンをストラスペイで演奏した後、まったく同じチューンを今度はリールで演奏するというメドレーになっている。“リールをゆっくり演奏すればストラスペイになる”の実例といえる。プラスチック・ケース入り。★★★★【注文略号：ファンデーションCD】

Dance Around the World… CDのみ

Colin Dewar & his Scottish Dance Band

- | | | |
|-----------------------------------|------------------------------|-------------------------------|
| 1. Grand March | 7. Oriel Strathspey | 12. From Scotia's Shores |
| 2. Antarctica Bound | 8. Canadian Barn Dance | We're Noo Awa' |
| 3. A Castle in the Air | 9. Eva Three Step | 13. A Trip to the Drakensberg |
| 4. Cape Town Wedding | 10. The Shetland Shepherdess | 14. The Swan and the Tay |
| 5. The Laird of Milton's Daughter | 11. Dancing in the Street | 15. The Homecoming Dance |
| 6. Cadgers in the Canon Gate | | 16. Waltz |



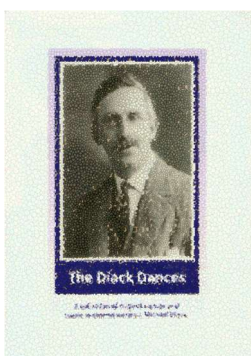
4ページに述べた Dance Around the World用のCDである。12ダンスを踊れとっているが、元となるCDのほとんどは、RSCDS品切れ、絶版となっている。現在本部から入手できるCDは Antarctica Bound

(Scotia Suite) と Cadgers in the Canongate (Book 9) の2種類しかない。というわけで、このほど本部は新たにコリン・デュワー・バンドの演奏で12ダンスを収録した

CDをサマースクールの初日7月15日に発売した。現品未着のため、公表データをもとに述べる。

すべてのトラックについて、最近の傾向を反映しオリジナル録音よりも演奏時間が長い。The Swan and the Tayの演奏時間はオリジナル3分17秒に対しこのCDは3分20秒、この延長度合は短い方で、A Castle in the Airではオリジナル4分32秒に対して4分57秒、約9%も長くなっている。平均するとオリジナルよりも3%ほど遅めに演奏されている。オリジナルのDancing in the Streetの演奏は速くて踊ると疲れる、の思いがあったが、このCDでは6%遅くなったので疲労度がいくぶんか軽くなるかもしれない。紙ケース入り。★★★【注文略号：ダンス・アラウンドCD】

The Diack Dances … ブックのみ (QRコードで音楽)



まずDiackのカナ表記であるが、「ディアック」、「ダイアック」などある。1998年5月、東京・晴海のホテル浦島(いまは10階建ての晴海センタービルになっている)で東海ブランチ主催のミス・ギブソンによる講演会が開かれた。彼女はソサエティの歴史を中心に講演し、その話の中

- | | |
|-------------------------------|----------------------|
| Mr Diack's Measure (8x32R) | Linda Gaul 作 |
| The Publisher (3x32S) | William Williamson 作 |
| The Milngavie Maestro (8x32J) | Gary Coull 作 |
| Centenary Circle (n x32R) | Gary Coull 作 |

でDiackを「ダイアック」とはっきり述べた。よってマガジン38号日本語版も含め、「ダイアック」とカナ表記する。

さてブックであるが、マイケル・ダイアックを顕彰する

4つのダンスが載っている。表紙を合わせて8ページ、40グラムの薄い冊子である。収益は「多発性硬化症財団」と「ジョゼフ・トムソン・マサイ財団」に贈られるとのことであるが、出版元がどこなのか明記されていない。おそらくウィリアム・ウィリアムソン（現チェア）とガリー・コール（次期チェア）の共同出資なのであろう。ミス・ミリガンとミセス・スチュアートにちなむダンスはそれなりにあるが、もう1人の共同創立者、ジョン・マイケル・ダイアクはその功績が長く忘れられていたため、彼にちなむダンスはなかった。最新のマガジン38号で明らかのようにダイアクの貢献はミス・ミリガンとミセス・スチュアートにも劣らない。ということで、リンダ・ゴール、ウィリアム・ウィリアムソン、ガリー・コールの3人がこのほど彼を称えるダンスを作っ

た。いずれのダンスも奇をてらうようなものではなく、万人が楽しめる内容である。Milngavieはブック注記にあるように、このスペルでミルガイと読み、グラスゴー市内の街区名である。Centenary CircleはRound the Roomダンス。

音楽は、裏表紙にQRコードがあり、これをスキャンすればスマホで聞くことができ、スマホとアンプ付きスピーカーをつなげばクラスでも使える。それにしても、LPからカセット、CD、iPod、SDカード、USB、QRコードやその他有料のBandcampなど、音楽媒体は目まぐるしく変化し追いつけない。CDのレベルにとどめてほしい、というのは年寄りのたわごとか。★★★〔注文略号：ダイアク・ダンスブック〕

* * * * *

ご注文は注文略号、数量、金額を明記のうえ、郵便振替 00240-0-63517 東京ランチでお申し込みください（送料込み）。

レナード・ブラウン CD ¥3,800
ファンデーション CD ¥3,900
ダンス・アROUND CD ¥3,700
ダイアク・ダンスブック ¥1,900

ショップ担当 横尾容子 047-447-5863

締切り 8月9日（金）

（締切りを過ぎての送金をご遠慮ください）

お渡し予定 9月中旬

8月 ブランチニュースは休みます

8月のブランチニュース、ブランチレターの発行はなく、次回発行は9月下旬になります。この間のお知らせはブランチホームページをご覧ください。

お問い合わせ、ブランチ活動やレターに関するご意見・ご感想など、遠慮なくセクレタリ西森典子までお寄せください。グループちらしの配布依頼も西森あてにお願いします。

クラスで踊られたダンス

4月21日 浅井恵子

The Festival Man 32J Book 48

The Countess of 32R Book 49

Dunmore's Reel

A Toast to Aberdeen 32S Watson

Peacocks in the Glen 32R Austin

5月26日 境 雅子

Toshogu Shrine 32J Stott

The Nikko Falls 32R Stott

The Ladies of Banffshire 32S Taylor

Redwings 32J Obata

Dumyat 32S Drewry

6月16日 高橋元乃

The Skeely Skipper 40J Olufson

Linea's Strathspey 32S Book 47

Jordanhill 32R Brown

70 is Fun 32R Trafford